

第6番 安楽寺

●徳島県板野郡上板町引野寺ノ西北8
☎088-694-2046
●宿坊／あり(要予約)



第7番 十楽寺

●徳島県阿波市土成町高尾字法教田58
☎088-695-2150
●宿坊／あり(要予約)



沿線の見どころ



お四国のしらかわ

安楽寺の山門と駐車場の間にある土産物店。お守りやお菓子、遍路用品を販売している。伝説の「さか松」にちなんだ「さかまつ煎餅」(540円～)の小袋には、「ほどほどに」というイラストが描かれている。ついつい先を急いでしまう遍路旅だが、コーヒー(200円)で一息ついてから出発しよう。

所 徳島県板野郡上板町引野寺ノ西北8
☎ 088-694-5889
時 9:00～16:30
休 無休



境内の見どころ



さか松

寺に伝わる伝説として有名な大師身代わりのさか松。境内の池のほとりにある樹齢1300年もの松の木で、42歳の厄年に弘法大師がこの地にきた時、獺師の青年が間違えて射た矢から大師を守り助けたという。枝をさかさまに挿しても芽吹いたのでさか松と呼ばれ、拝むと厄除けになると信仰されている。



境内の見どころ



方丈

遍路や旅人を泊めて保護するよう指定された寺「駅路寺」であった安楽寺。寺には蜂須賀家政公によって出された慶長3年(1598)の「駅路寺文書」が寺宝として大切に保存されている。当時の面影を残すのは茅葺き屋根の立派な方丈だ。また、宿坊には大師堂前を源泉とする天然温泉「弘法の湯」があり、宿泊者のみ入浴することができる。



堂々とした佇まいの仁王門が遍路を迎えてくれる

第6番

温泉山 安楽寺

おんせんざん るりこういん あんらくじ

大師を守った松と天然温泉の寺

歴史・全体像

温泉山という山号からもわかるように、かつてこの周辺には鉄サビ色の温泉が湧き、万病に効くとされ、遠くから湯治に訪れる人も多かったという。四国行脚中にこの地を訪れた弘法大師も、この土地が病疫から人々を救う薬師如来と深い因縁で結ばれていると直感。坐像を刻み堂宇を建立して、四国八十八ヶ所第6番霊場と定めた。これが寺の発祥となっている。諸堂には、慶應の京都大仏師・松本明慶が無名時代から彫り続けた仏像60体余りが祀られている。また、性霊殿には、弘法大師のさまざまな筆法の書が刻まれた「大師之壁」がある。

境内

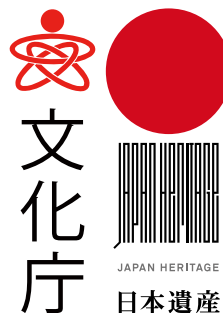
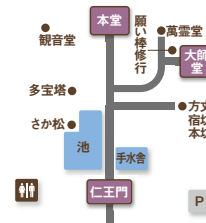
本尊を祀った本堂は、昭和38年(1963)に再建された鉄筋コンクリート造りの建物。四国霊場には薬師如来を本尊とする寺は多いが、1番から順に巡ってくると、一番最初に出会うのがこの寺だ。

昭和37年(1962)、不治の病で医者にも見放されていた愛知県的女性が、夫とともに薬にもすがらないで病氣平癒の願いを込めて霊場巡りに出掛けたところ、その旅の途中に病氣はみるみる快癒していったという。本尊はその霊験に感激し、奉納された仏像だ。弘法大師作といわれる元来の本尊は、胎内仏として納められている。

御詠歌／仮の世に知行争うむやくなり
安楽国の守護をのぞめよ
本尊／薬師如来
真言／おん ころろ せんたり まとう
ぎ そわか
宗派／高野山真言宗
開基／弘法大師



順打ちで最初に薬師如来に出会える寺



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



